

1) 調査の概要

テーマ「B 大学・留学生会館の誘致」については、基礎的調査として学校法人等のニーズ把握を目的にアンケート調査を行った。アンケート調査では、サテライトキャンパスの開設や留学生会館等について、西日本の国公立・私立大学を対象に中長期計画に基づく意向把握と今後の特区構想の進捗に応じた検討協議の可能性の把握を目的として行った。

本調査では、アンケート調査の実施に先立ち、本校キャンパス外の大学関係施設（サテライトキャンパス）や留学生会館等の動向を既存事例調査により分析し、その上で、調査事項の検討・立案を行った。アンケート調査の詳しい内容は、後述のとおりである。

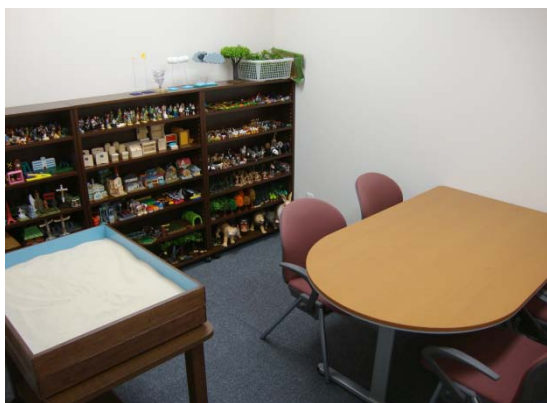
2) 大学・留学生会館の動向（既存のサテライトキャンパス）について

サテライトキャンパスの設置の仕方としては、専用のビルを新築する例は少なく、（大阪大学は元の中之島キャンパスに、中之島センターとして 2004 年に新築）大都市の都心部にビルのワンフロアなどを使用している場合が多い。フロアには、大小のセミナー室や、談話室、個人面談コーナーなどを設けているものが多い。



左の図面は、岐阜駅前 37 階建ての複合ビル内にある岐阜大学サテライトキャンパスで、着色部分がサテライトキャンパスにあたる。教育研究の推進、学生の活動、地域貢献、情報発信のための施設として 2012 年に開設している。下は内部の写真。大小の多目的講義室や、少人数のミーティングルーム、こころの相談室、パソコンなどを自由に使えるラーニングコモン室なども設置している。

※ 図版は岐阜大学HPより



<サテライトキャンパスで行っている主な活動>

公開講座、生涯学習活動

大学が一般市民向けの公開講座を行う。

ex.大阪大学・・・大阪大学中之島センターとして新築。朝日カルチャーセンターとの共同事業として、「阪大朝日中之島塾」として講座を実施。内容は、医学、人間科学、文学など多岐にわたる。

※図版は大阪大学中之島センターHPより



滋賀大学・・・大学サテライトプラザ・彦根は、県立大学と、滋賀大学および聖泉大学の彦根市内の3大学が新たな連携モデルの構築を目指すとともに、その知的資源を活用した行政、地域企業、地域団体との連携による地域再生、新たな地域活性化の拠点として平成19年4月にオープン。3大学の連携によるリレー公開講座をはじめ、各大学の教育研究活動やその成果発表、また産学連携による研究交流会等々の事業を展開している。

※ 図版は滋賀大学HPより

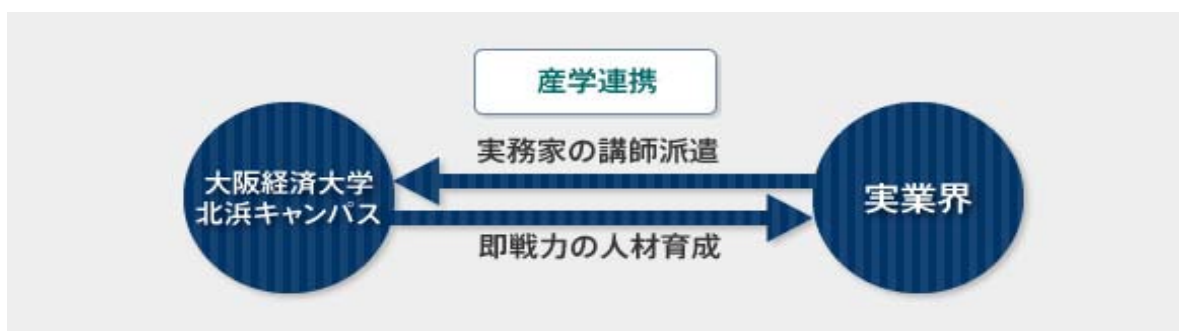


社会人向けの教育

社会人向け（主に現役就労者）の専門教育を行う。

ex.大阪経済大学・・・大阪証券取引所の建物内に、北浜キャンパスを置き、社会人大学院を開設。社会人向け公開講座も行う。開講時間は、平日夜と、土曜としている。講師としては、大学の専任教員に加えて、実際に現在実務をしている専門家が担当している。

※ 図版は大阪経済大学HPより



就職支援

在学生、卒業生に向けて、サテライトキャンパスが位置する地域での就職支援を行う。支援方法としては、個別相談、情報の提供等。

ex.同志社大学・・・梅田サテライトキャンパスでは、在学生の就職支援として、そこでパソコンの利用や、在学生の成績証明書、卒業見込証明書、健康診断証明書や学割の発行、就職関連図書、新聞、雑誌の閲覧、同志社大学指定の履歴書および封筒の販売、また学生の休憩場所としても使用できる。

※ 図版は同志社大学HPより



地域連携活動

ex. 和歌山大学・・・岸和田市立浪切ホールに岸和田サテライトを平成 18 年に開設し、地域のニーズに対応した各種の地域連携活動・生涯学習活動をおこなっているほか、和歌山大学の学部開放授業および大学院科目を開講し、地域市民に高等教育の機会を提供している。また、地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施をしている。また、まちかどサテライトとして、和歌山市内の商業施設内に開設し、和歌山大学の研究活動等の紹介、セミナー、公開講座の実施、サークル活動等を通しての地域交流、和歌山大学入学の相談などを行っている。

※ 図版は和歌山大学HPより

【岸和田サテライトオフィス】



【わだい浪切サロン】岸和田サテライトオフィスにて行っている。和歌山大学の教職員が中心となって、地域住民に身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすく解説している。高校生から 80 歳代まで幅広い年代の参加者から、学びと交流の場として親しまれている。終了後は自由参加の懇親会等も実施。



第 10 回 森林と地域再生



第 21 回 書にしたしむ

多大学で共有しているもの

大学コンソーシアム大阪・・・大阪府内の45大学が会員となり、大阪府内およびその周辺の大学の相互連携を深めるとともに、地域社会・産業界・行政と協力しあって、地域社会に貢献し、お互いの連携を強めること、国際交流を進めることを目的としている。

そして、その目的達成のために、①高大連携（高校生への大学の情報提供） ②大学間連携（単位互換制度） ③インターンシップ（産・官・学が連携し、インターンシップの実施など） ④国際交流（シンポジウムの開催や、国内の留学生との交流等）⑤地域連携等（自治体と大学との連携によるまちづくり活動等）の活動を進めている。

【高校生のための大学フェア・大阪】



高校生に大学の学びや良さを知ってもらうことを目的に会員大学が協力して、平成18年から開催している。各大学の教員による「模擬授業」を中心に、卒業生によるトークショー、文系・理系の専門分野を説明する「分野別ガイダンス」、各大学の担当者が個別ブースで様々な相談に応じる「大学別相談コーナー」を行っている。平成25年7月には、近畿大学を会場として開催。当日は1,380名が会場を訪れた。

※ 図版は大学コンソーシアム大阪のHPより

単位互換制度

「単位互換に関する包括協定」締結大学の学生が、他大学の科目を履修した場合、その学生の卒業単位として認定可能な仕組みの制度です。科目には各大学のキャンパスで開講される「オンキャンパス科目」とキャンパスポート大阪（大阪駅前第2ビル4階）で開講される「センター科目」の2種類開講。

平成25年度事業では、オンキャンパス科目431科目、センター科目10科目が提供され実施。



インターンシップ・プログラム（夏期）

在阪の企業、諸機関、官公庁および諸団体を主なインターンシップ先とした、包括的なインターンシ

ップシステムを産・官・学の連携のもとに築くことを目指すインターンシップ。参加学生の就業意識と企業に対する関心を高め、定着することが目的の一つ。

平成 25 年は、23 大学から 170 名の学生が 73 企業・団体に参加。



プロジェクト型インターンシップ

大学コンソーシアム大阪独自のプログラムで、「大阪」が抱えるさまざまな課題や問題について、地域の方々の協力を得ながら、学生自らが「P (Plan) D (Do) C (Check) A (Act)」の実践を通して社会で活躍し得る能力を身につけることを主眼に置いて構成。

平成 25 年には「あべの・天王寺まちづくり構想プロジェクト」をテーマに行い、実習には 10 大学から 15 名が参加。

【台湾との国際交流シンポジウム】

平成 25 年 10 月に台北で開催された「台北大阪高等教育シンポジウム」では、「大学生の国際移動力を高める術」、「ハイテクとエコキャンパス」等の 4 つのテーマについて日台それぞれの学長が発表を行う。また、懇親会においても交流を図る。

【国内学生・留学生の国際交流イベント】



国際交流イベントは、国内学生・留学生がそれぞれ異なった文化の立ち位置からの見方を学び、「グローバル」の一端に触れ、世界への関心・視野を広げることを目的として実施。平成 25 年度は、秋季に大阪の中小企業見学、新しい街「うめきた」(ナレッジキャピタル)で国際サービスを学生自らが企画するアイデアソン等の活動を通して交流を深める。